

琉球大学学術リポジトリ

必要書類集

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション : 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 宮良當整 (筆写) , 2009/6/5 16:47 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/6237

明治廿五年改定

必要書類集

宮内省編

明倫彙編

公習錄書類集

宮良尚整

桃里村廿九年ヨリ本年迄迄之約言テ又ハ
 後免の洞市是ルニヨリハ米シテ積蓄セリ粟ア
 九モ後カニ石名余、道キス依ルニ明カヤキ月
 ヲリ本年十月迄交租氏妻トシテ付ト母本
 葉下而丸ハ細付ト又ハ免收或如ニ石名斗ニ米
 門斗ハ後カニ石名過キス余、或如モ石名斗
 ニ米ハ悉ク留シ以テ細付也リ云ラスヤ人氏ハ
 辛酸若新漸ク收メ又ハ斗十モ免租トヤハ
 同氏又ハ、新替トシテ、其の也廿ハカニ廿知ハ
 石名又ハ、新替トヤハ、其の也廿ハカニ廿知ハ

心

心

心

心

首祖ト氏其ハ八國ヨリ同日ノ波ニアラサトモ
氏其ハ余氏天此リノ氏ハ出采ノ其從取徒
送付スルハ書所ノ可也ト云々ト云々ト云々ト云々ト
ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト
何故ナシヤ其地由河の東カハ度其地ハ
其地ハ也

此後言ハテト 屬其地ノ古傳ハ也
其人ハ其地ノ高祖也

此後言ハテト 屬其地ノ古傳ハ也
其人ハ其地ノ高祖也
ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト

桃里村年氏其ハ八國ヨリ同日ノ波ニアラサトモ
氏其ハ余氏天此リノ氏ハ出采ノ其從取徒
送付スルハ書所ノ可也ト云々ト云々ト云々ト云々ト
ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト
何故ナシヤ其地由河の東カハ度其地ハ
其地ハ也

不足トナリタレテる實ハ全ク没第書ハ
名付夫ヨリ全ク没出ニタリ書於依判以
ナリ又書モ名ハ貯高ニ愛心ト切テる勢元
相互任名ナレモ相ナリテ該規則依リ云レテ
而相ナリカス自ラ寄持トナレ居ル依リ而
ナリ終接錯雜ト書ク（以モ書モ） （又カキテ）
は書ト云レテカラテ免スル職務ニ為レ
ト致ス而テ付名没書セテ又之ニ付名寄持
元、惣額河カクニ付名（又カキテ） （又カキテ） （又カキテ）
トトモ書ルモモハ如ク家正別由通

毒ハカクテテ而後之を逐テテカキテ

以候五月二十日、（又カキテ） 山島没而長大田村

政之人宛

始末書

將節没而負額片ナク之故取テ地方ニ付
貯蓄元、没而様布且書、当而國元、
寄持ナリ又ハ信利、テ家寄ハテ、
四月廿日付名、未達、沈没、水、信、
私儀、如、年、六月、未、保、村、没、
病、中、三月、未、日、持、
初、他、入、仕、
以、第、一

抄物堂元洞去後病者多之云云
寛永九年三月
宗良子宗

宗子家

今般亦六重性才三八号の以テ津達流年
依高村子出生二年省細布免稅者一政
院四世宗子高三子信右細布免稅者
其成減免稅者法也其後生高三子
高三子細布免稅者加免稅者信右宗子
村子信右子信右子信右子信右子
牛加免稅者信右子信右子信右子

他出生之し助力無かり首事令お煎京
中世神主亦お法有首事通村の信右ハ
信右子高三子信右子信右子信右子
有るもの信右子信右子信右子信右子

宗良子宗

宗良子宗
宗良子宗

野里為副

宗良子宗
記

但半反播希也

作稻開花、景况

当村人民等本年年度植付、稻ハ二月中旬比ヨリ
二月下旬ニ至リ終結ス則チ前年比ニテ五日程
期節早カリキ去リトラ植付以來早魁、及
夫水田ハ水全ク涸レタラ以テ稻々々枯槁、体ニテ
其葉黃褐色ニ變シ水田ハ水量全ク涸レタリトハ
アラ子ニ其成長、形勢亦拙劣ナリキ然レテ幸ニ
四月下旬比ヨリ折、降雨アリシ依リ天水田モ漸ク
水シ受ケ水田ハ水量ヲ從テ各田共成長漸ク

宜ク水田、稻穂出揃、田天水ハ指多、八程出揃
早魁惱マセラル、甚ニカリシ故十本植付トモム
漸ク二三本乃至五本計生長シ余、若テ本ハ
枯朽ニテ穂出モ漸ク指多ノ一伍ナリ加之開花、
折北風烈シキ為メ指多ノ三程空穂ナリ目下ノ
景况ニ依レハ例年、比ニテ作ハ及ハサレ氏下作ハ
至ラサレ見込ナリ

右報告ニ候也

白保村誌自善

明治廿八年六月五日

野里為副

全興人

宮良 吉 敷 正

八重山島藏元 濟 之

作 稻 開 花 の 景 況

盛山村人民等本年年度植付、稻ハ一月中旬比
植始、二月中旬比至リ終結ス、則チ相当期節ナリモ
植付迄早魁ノ災、憂アリシタメ、天水田ハ水大、表
來シ、稻モ枯滅シヌ、其葉枯色ニ、麦ハ水田ハ水量
全ク潤レタヒニアラザレハ、左程ノ害ナキリ、凡サ成長ノ
形勢亦平順ナラサキ、然ルニ四月下旬頃ヨリ

折ノ降雨アリシ、依リ、天田モ漸ク水ヲ受テ、水田モ
水量ヲ増シ、各田共ニ成長漸ク、繁茂、水田ハ
稻穂、括多ク、八程、掛リ、天水田ハ、早魁、惱シ、凡
甚シカリシ、故生ニ、多クハ、苗子、本、植付、モノハ、漸ク
二三本、至乃、五六本、計、成長シ、余ハ、括、朽、ニテ、出、穂、
一二位、ナリ、加、之、開、花、ノ、折、北、凡、烈、キ、力、又、括、多ク、三、程、
空、穂、ナリ、目下、景況、ニ、依、レ、ハ、例、年、比、中、作、
ニ、モ、及、ハ、サ、レ、氏、下、作、ハ、至、ラ、サ、ル、見、込、ナリ

盛山村夏白保村誌月差

野里 為 副

明治廿八年六月五日

生シ空穂ナリニ故刈採為サズ依テ收穫高大ニテ
平年ニ比スレハ下ニ作ナリ先ニ反歩年約收穫小
麥ハ言斗五斗ツ右大麥ハ斗斗五斗合ハ夕四斗
小麥作反別セ及六畝指キ步大麥九畝ハ歩合
八反五畝指九歩ナリ
右報告ニ矣也

桃里村夏白保特茂也

明治廿八年

宮良當整

八重山島藏元柳也

当村民本年作甘稻八月中旬頃ヨリ三月初頃迄

至リテ押狭ス期節ハ尤適順ナルモ生長期即チ月
上旬頃ヨリ五月上旬頃マテ降雨ナキガ為メ水量ニ
且場所次第亀裂ヲ生シ依テ其生長繁殖不
充ルニシテナス亀裂セシテ所ハ惱マシラレテ甚々シ
カリキ然ルニ幸ヒ五月中旬頃ヨリ降雨屢ミアリテ
潤澤シ得テ故漸ク復活ノ勢アリシモ既ニ生長ノ季
節シ過シ將ニ開花ナラントスル時期ナレハ指分
効ラ見ス去リナガラ氣候適順ニヤ開花ニ障害
ナク早稲穂出揃中作ハ指分ハ晩作ハ半方程度
花セリ目下ノ景況最モ宜ク尔店愛災ナキハ良

好、勢ナリニモ以上、如キ發芽殖不良ナル故全体ヨリ、
云ハハキ作十九日ニ
右報告ニ矣也

桃里村夏目保村諸共

明治廿八年

宮良當整

藏元清平

当村人民作付リ小麦大麦ハ客年十月下旬ヨリ全
十二月上旬マテニ播種ス然レニ夏后降雨少土地最モ
乾燥セシガ生長ナラズ且ツ半熟際即チ
三月頃ニハ降雨繁ク依濕ナル場而シテ如キハ間ニ

腐朽スモヨリ殊ニ降霧ノ災害ニ被リテ登熟ニ
至リテモ亦不良種寡細ク收額大ニ少ク年々比スル
下ニ作ナリ先ニ反斗ノ年約收穫高小麦ハ斗
斗未ダ合九斗小麦ハ斗斗七合斗九斗作付反別
小麦斗五斗及七斗拵斗小麦四反斗拵斗合ニシテ
三町斗反斗拵五斗ナリ
右報告ニ矣也

盛岡村夏目保村諸共

宮良當整

明治廿八年

八重山島藏元清平

当村人民本年作付稻一月中旬頃より植始
全下旬に至りて終結ス烟節ハ最モ適順ナルモ生
長期即チ四月初頃ヨリ五月初頃マテ降雨ナキ
依リ肝柄次第亀裂シ生シ或ハ水量乏シク為
其生長繁殖不充分ニナラス亀裂セシ肝ハ
悩マセラルコト甚々シカリキ然ルニ五月中旬頃ヨリ
潤雨得タルヲ以テ幾分カ復活ノ勢ニアリシモ
既ニ開花生長期尙経過將ニ開花ナラント
スレノ時期ナレハ左マテノ効ヲ見ス去リナカラ
氣候適順ニヤ開花ニハ障害ナシ早稲ハ

穂々揃晚稲ハ半方程開花セリ目下稟况最モ
宜ク他日夏災ナキレハ良好ノ形勢ナルモ前述ノ如
繁殖生長不充分故全体ヨリ許セハ概シテ中
作ノ見込ナリ
右報告ニ矣也

威山村兼白保村誌撰人

明治廿八年

宮良 當 敷 正

八重山島嶽元部中

西表村工キス製炭場場敷島幸丸島外
そ石モ々亦皮費入る。件付亦九島外

園籠の松々意を云ふかか交止人民同也
後文の凡ん氏小く爲す事造り共百
二法清石中中如右方凡ん千之也

桃豆丹志書律法同也

元禄五年十月

冬号

野里為副

八雲心教の元禄中

宮良高整

列後解者之通う方送之四取り付道運任也

元禄九年十月

改人 志名

預

桃豆丹志書律法同也

元几の云

右及几の云事 尚村人に表徴付る解系字向
ノ為メ去以流お年 寄良如ヨリ寄人ニテ亡父
共ニ轉籍之字年寄既ニ流ノ如物免後系
流志ニ其受以流亦之年八月ヨリ宮良高切
野衣二村ハ当地平民松原ニ移方今當ニ
明治廿六年お寄留改ニ實際在ニ取ノ
志歸ノ亦在改流ニ居ル物志ニ系臨ノ通事

全体に付調査スル牛ハカノ如シ

(1) 家飼養良シタルモノナキト云々畜舎ノ位置構造ナシ
(2) 原野繫家畜置キハ天然ニ生ズル草類ニ良シ
家畜庫ニ来ル牛ハ唐芋皮或ハサカツラ又桑葉
ノ類ニ食セシム

(3) 繁殖ニ用スル牛ハ四五才ノ際ヨリ大依牧
場ニ入ルニ依ラスニテ交尾セシム朔時ハ重ニ
十月十一月ノ頃ナリ

(4) 選擇方法ナシ牝牛馬ノ公ニ總ラ牧場ヨリ
連テ来ラ原野繫テ先ツ其牧場ヨリ取ル

年令馬ハ滿ニ才頭牛ハ滿ニ才大今月頃ニテ
生産店馬ハ三才牛ハ滿才ノ頃ヨリ使役ス
牝馬ヲ使用スルハ只牝馬ナキカ为メニ使用スル
生産スルヤ母牛馬保護ニテ生長セシム而シテ
去勢スル等ノナシ

(5) 使用小田生マシ際ハ人為ニテ保護スルナシ
(6) 使用ハ田畑耕方並諸物運送ニ使役ス使役各
日數ハ二年間常ニ使役シ只々無セシムハ祝
祭日雨天又主人病氣又際ノト又牛馬ノ頭
ノ負荷力ハ大依百七八十斤位牛馬ノ

斗百竹位一日ノ工程ハ五百坪位ナリ
 外貌別段良否ノ諸点ナクハ助逞マシク
 性質柔順ナルモノヲ良シトス
 五村ハ別ニ家ニ由スルヲナケル其生産屠殺等
 数ヲ記スルヲ要セサルモ繫牛馬並牧場中
 数ヲ記スルハ一年間生産スル数ハ牛馬合シテ
 三百三四拾頭ノ当リ屠殺数ハ全六拾頭位ニテ
 輸出ハ指頭程斃ハ年年三拾頭位ナリ
 疾二病ナク只瘡衰又ハ衰老ニテ死スルニシテ
 疫癘アリシ年ハ今ヨリ拾年前ニシテ當時

其病原因何々ヲ知ルモノナク又豫防法治療
 法アリシヲヤシキ平常腹痛ノ如キ見認ムルハ
 藪園類ヲ焼キ腸部ヲ暖ム等ノ一止マリ別治
 療スルヲナシ
 別段産業ヲ職トスルモノナク又全業ニ注意シテ
 改良方法等ヲ講ズルヲナシ
 八重山島白保村牧場ニ関スル調査
 牧場名称ハ野名牧ト称シ村ヲ距ル三十町位ナリ
 尤近隣ニテ運輸便利ナリ
 地勢ハ高キ所アリ或ハ低キ所アリテ一概論

難クハ魚ト重ク高地ナリ又地質ハ赤地黒地
アトモ割合ミ黒土地質方々ニテ牧場内雜木
往々般系茂スル所アリ

面積ハ約百七拾三町九反壹畝指步ナリ

牧場ノ構造ハ石ヲ以テ垣ヲ築置セリ

牧草ノ種類ハ茅ヲ本ニシテ芒アスヲ瀕カズラ其

他天然生ノ雜草ナリ人カヲ以テ牧草ヲ選擇スル

等ノ一ナク天然ニ生長セシ茅老衰シタラハ燒松

新芽ヲ發生セシムル事ニテ別改良方法ナシ

被陰トナルハ重ク林又ハアタニ等ノ般系茂セリ處ナリ

又畜類ノ飲料水ハ川流水ニテ所湧水一テ所溜水

ニテ所アリ水量數々々々ニテ不便ナシ

畜類ハ牛馬ニシテ

牛五百四拾三頭内七十八頭壯四百七十一頭牝
馬四百八十六頭内六十頭壯四百二十六頭牝

飼畜ノ管理ハ四季ニ区別ナク稲粟收穫后即チ

旧六月中旬頃ヨリ稲粟播種生長セサル前即チ

早二月中旬頃迄ノ間ハ閑牧ニシテ牛馬ヲシテ食草ナシ

自由ヲ與ヘセシム其他ノ季子期ハ閑牧ニ牧ホサト稱シ

村民ノ内毎年五人相當一人品賦立牧内ヲ巡視シ

牛馬ヲ牧外逃走セシメズニテ作物ノ被害ナカラシム

又ハ牛馬ノ被害アラサル様守護セシム

九

十

十一

十二

十三

十四

交尾ハ人ヲ以テスルナクニテ各自然ク交尾ナリ

蕃殖ハ漸次級系榮ノ模様ナリ

畜類使役ハ天水田ヲ踏摺フ際較系牛ト共使役

馬ハ畜田牧中使役スルナシ

畜類販賣ハ主方ノ勝手ニ任ス價格ハ平均八四

位ナリ別段販賣ノ方法ナシ

牧主ノ數ハ百三十七人且ツ牧主トナル牛ハ牧主人數

相討テ同ノ牧主人數ノ許シ得テ居ル牧主トナル

牧場管理人ハ第九條中講シタル牧ホサニシテ

卒目ノ守護ハ右ボサ勤務スト云々牧大修理繕及

其他臨時非常ニ依リ大ニ人夫ヲ要スル牛ハ牧主
人數共同ニテ相達ス

十五

牧場維持方法ハ前年旧二九月頃二回牧祝ト

稱シ牧主人數ハ出會ニテ牛馬ニ所寄集セシメ

牛馬一ニテ調査シ子生産アリシ牛ハ各自ノ判形

耳ノ付シ又較系飼年令ニ適スルモノハ實際取出シ

繫飼ノ上使役ス而シテ牧祝ヘトシテ酒宴ヲ

開キ又維持費ノ如キハ牧主人數ヨリ毎年米斗石

旧六月頃割符徴收シ直ニ右牧ホサニ送與ス

十六

牧場ノ格別ノ良点或ハ欠點ナクニテ東シ海涯ニ接

半馬沐浴スルニ便利ナリ

作米閘花ノ景况

新城村人民等傳本年度作付稻ハ客年十二月
初頃播種ニ本年二月初頃ヨリ三月初頃迄抑秧ス
時節相當ニテ亦后用水潤澤アリト故頗々好况
ナリト云客年七月頃早鬼セテ故ニヤ四月初頃ヨリ
稻葉ニ黒星等ハ病癘シ生ニ終葉殖不ニルカニ
甚キハ枯朽シタルモノ間マヤリ漸ク全月末頃ヨリハ
右病癘相去リトモ閘花ノ除即々五月初頃ヨリ
降雨少ク為メ天水田ハ水全ク涸リテ亀ガ裂生シ

水田ハ水全ク固タリニハアラ子氏其成云月ノ形勢亦
年頃ナラヌ出^穂スルニモ甚ク困難^穂、故ニ同所同時
植付セシ稻モ年年トハ大ニ異リ^穂、數日間ノ前後ヨリ
出穂ニ齊ナラヌ亀裂セシ場所、如キハ猶更ノ
不良不齊ニ及令今后降雨潤澤シ得ルモ既ニ
期節過キシハ方マシ、効ナカルベシ然ハ出穂ノ
割合ラ舉クレハ水田ニシテ早^早作セシ稻ハ五月頃
迄何モ開花ス中他ハ多クハ亀裂セシ場所及晩作
等ハ多クハ四程開花セリ以上、如キ終葉殖不良モ穂
一齊ナラサルモ先ツ大豆実ノ模樣、宜取モ宜目下ノ

新城村後三島郡市民権同知事利光母
マカト私生男真依ナルモノ目下存生ラズ知
ハ程ニ猶志ニ在ル事ナリ此ノ誤母マカト儀
麻呂志ニ他人ノ目ニ觸ルニ悔リ村ヲ離レ去リ
別荘ヲ構ヘ現任ニ在リ依テ日ニ相見テ思存改
ム所ナリ日居セシハ後前名ヲ改メ今際ニ元
見セス且テ名々モトモト何カ申シテ今取
至リ別荘ニ過リ就籍欲出ル事ナリ元見シタル
事ニ違ハズモ事ナリ情ナリ就籍決断可
キ事ナリ此ノ事ナリ此ノ事ナリ願也

新城村後

明治七年六月

宮良高徳

三島郡新城村道安殿

三籍名就籍願

新城村後三島郡市民権同知事利光母マカト私生男

真依

明治七年二月十九日

右利光母マカト病体ノ流出病ニ及リモ付醫治
ス國籍ヲ極大ニ為シ居ル事ニ違ハズモ事ナリ
一昨月廿日此子入籍セシモノ也此子居テ

夫一切不存付今日至心付甚事也
亦不執事特別し清淨済むる何事今取
能藉済淨可成下後視族之業也
此後守其地也

治承六年六月廿二日

横目河加三利

視族三島池

治承津臣

三島三島池

平田貞和

沖繩縣志事考附志原繁榮

作米関花、景况

當新城村人民等本年耕作、稻、過ギ一月中旬
頃、全三旬頃迄、柳、秋之時、即甲雨ナリ、以後、惠雨
降下、用水加減ニシテ、潤澤ユカカリ、故生立頗ル
好況ナリ、早作、稻、生立其度、過々、故、方、處、之
葉面、黒星、病、癩、シ生、之、葉、先、枯、凋、ス、之、久、キ、
非、ス、ト、モ、在、リ、カ、各、月、中、旬、頃、ヨリ、右、病、癩、ヲ、集、ム、退、去、
今、ヤ、八、分、通、リ、関、花、セ、シ、モ、模、様、見、事、中、作、及、晚、作、
ノ、概、ニ、幸、ヒ、無、事、ニ、シ、最、早、中、作、七、分、晚、作、五、分、通、リ、

明治廿二年五月九日

宮良長英

金山郡向切役場前

丹波の事跡所を長吉道修後不仕不付る事
別紙に傳ふ依り入表取立りて見越す
通りてしりて改修可成所計九筆正共
奥中一筆也

形傳如凡

明治廿二年五月九日

宮良長吉

金山郡向日野町長安殿

形傳の事跡所修後不仕不付る事

一家を一新す。之を以て修後不仕不付る事

古に傳へ在来、葺の雨条之為朽れに於て
中より座落不台之りて四ヶ所如楠等十本壁土板等
此等葺等仕共葺り在来、古葺り此等葺り
入交へり葺り方之りて雨条等葺り葺り家、体制
詞現るる

形傳の事跡所修後不仕不付る事

一、此の古同の如く也

の故

上、四、月、三、日、記、事、也

但馬次權年六十六年三月廿七日

五四月

但大之四人

生つて来

但鹽新七り代

生つて来

但人更つた人

但海の伝説

但海年一月九月

但海古

但海古年三月廿日
古海流の事

一 上之記

但海流の事

但海流の事

但海流の事

但海流の事

但海流の事

但海流の事

但海流の事

但海流の事

但海流の事

此等如人義士希爲立計弱体、身ヲ月日
 一、田、節シテ一家ヲ維持スル能ハス平日
 飲食衣履等々收去、以テ補助スルニテ
 日用、被道等々、列陳シテ、
 遺財存シ、其出有シ、ハ、
 此後列申也

以後年一、年九月
 心算以テ、
 心算以テ、

徵集免除願對スル取調事項

一 願人一家中、生計上、一、年間要スル費用及
 一人平均額

願人一家中、生計上、一、年間要スル費用

高金百九、田五拾、夫ニミテ、一人平均額拾八

田五拾五、夫一人一日ニ金五、夫一、十リ

一 全耕作田畑、反別、及其收益、高租、貢租、公
 費等、シ、差引、ク、純益、高シ、云、一

田畑、反別、九反、計、四、步、ニ、シ、テ、廿、收、益、金、百

拾、七、田、七、拾、五、夫、五、里、
平常食料、年歳、及、殊、餘、
 下、分、ニ、シ、テ、日、金、二、取、テ、計、算

一 金売其他貸附金高及利子、收入高

元來亦負者ナル付金売、貸附ナシ

一 家族職業及其職業ヨリ得ル一年間、

收入ナシ

一 貢租公費其他、負担高

貢租負担額三四七拾三兩四匁

間切費負担額三四六拾三兩四匁

村費負担額九拾九兩四匁

貯蓄苗米七坪三合六勺六分

一 宅地及家屋、有喪

宅地及家屋ヲ有ス

一 壯丁者家族、所有財産

壯丁者家族、有財産ナシ

一 最近親類縁者、住所氏名及其生活程度

新城村四拾九番地牛尾鳩間武慶志ハ壯丁者ノ

実弟ナルモ該家前ニ牛鳩間及良子ナキニ

依リ養良嗣子トナリ今更ニ家統相續セシモ

當分身ノ成熟薄ク最モ該養良母トマイモ

年數ハ尚、或踏々タル老婦ト西人共一家シ

維持スル能ハス該家所有田畑モ壯丁者ノ
監督助カシ以テ耕作シ且右兩人平常ノ
養生ニ月方モ全人ノ者ヲ護アリモ又次ハ全村
三指ニ米苗地子民西件加那ハ母方從兄違ナリ
シガ其生計ノ程度ハ貧窮窮乏ニテ活計
上困難漸ク相營ミ居レリ

一壯丁者ガ主トシテ其一家ノ生計ヲ維持スル
コトナリタリタ九年四月日

父加那ハ明治二十七年九月ニ病死母ケシニハ
數多ノ家族ヲ素ノ喰食衣服供養整

迄ニ漸ク修理シ他ノ職業シニ思ガレ故今年
十一月ヨリ重ニ一家ノ生活ヲ維持シ居ル
ト云フ

一家族身体ノ強弱

家族ハ右ノ通婦人且幼年身ナリ

一兵役シ免カレシガ為メニ事故シ作爲シタ
事跡ハナキヤ否ヤ

右壯丁者徵集免除ノ出願ハ前項ノ通
本人徵集ニ應ズルハ從來ノニ産業ヲ維持シ
能ハサレハ勿論兩家共ニ生計上困難シ

極く有状にて止り得る事情より出願
久しきこと認められ兵隊の免カレニ力為り
殊更の事故の作爲に多し形ハ十五
右之通相違衆之矣也

右垣間切新城村頭

明治三十二年一月

宮良富整

一 本表調査の麥草普通生立の場所
新城村世二年作付、大不稔麥二坪收額
例調査、備考

撰定刈採種実、例の挙ケり然りと當村地
所マ嘉阿の壘置ミ且根石脈運り幡布
殆んど夫及こり今般耕作セミ麥畑、内
稾的指多中三分程の以上如キ石原
麥草二三本乃至四五本或ハキ本モ
セガ場所モ有セリ去十カウ作付反別
要スルハ嘉阿及幡布、石脈等一
の客易チラス空ク面積、部
斯クナルヲ以テ作地全体均
評セハ各給共表中一記入、
数量ヨリ應分

咸少ナリヤ

一 登実ノ等結ニ評スル高村村ノ満作被
先の本年ノ類似ノ作柄ニ尋ル今ニ距ニ拾年
以前ニ是度アリ想フ今度、如キハ拾年乃至
半拾年ニ是度程ノリトハ実ニ此子ノ豊作ト
云フベキナリ

大味海子ノ事ニ於テ海丹助教ノ件ハ二事

形件ハ其ノ事ニ急ニ事ニ

大味海子ノ事

其ノ事ニ急ニ事ニ

登野原保久ノ事

右海子ノ事ニ義也年ノ貧弱保其云ノ以高村
儀交ト云留之者ト云ルノ事舟水事ト云テ本年
二月廿一日其村ノ海、際亦高木流有也其地
年ノ門ノ夜ガ炎カニ名示高ハ石匠ノ沖居テ
激浪ガハ赤丹類覆後海中ノ漂流九死一見ノ海
至リムルノ事助救該也送候ニ限申出
カシムル事保ノ義人信高也、我ニ其ノ事
附人ノ仁心勸道守ノ事、特別シテ相与シ
津屋賞社本ノ事、其後ノ事、也

水俣五郎

延治二年正月廿二日 宮良長為整

重山島司野村道安殿

交々作成熟、景況

當新城村民等作付、大小裸麥、播種自雨量
可、氣候適順アリ、而之、繁殖草立成長、
等級の差、土地、肥瘠依り、甲乙、不易論
之、アルニ各場所、品質、其、之、應、之、評、スル、中、ハ
何モ良好、コレ、登、実、之、亦、最、モ、宜、リ、收、額、大、
増、之、近、年、罕、リ、豊、作、ナ、リ、先、ツ、キ、反、步、率、均

收、獲、見、込、高、大、麥、廿、斗、五、升、合、計、七、斗、小
麥、三、斗、七、升、三、勺、八、分、裸、麥、三、斗、五、升、三、合、作、付、及
別、大、麥、七、畝、拾、六、步、小、麦、九、反、七、畝、拾、步、裸、麥、又、
七、畝、及、四、畝、拾、三、步、合、計、七、畝、拾、九、步、ナ、リ
右、報、告、云、矣、也

新城村頭

明治廿二年正月廿八日

宮良當整

八重郡間切役場御書

第六八三号

客月廿八日付、以テ新城村大井波知伊外

吉名褒賞方申出候處右ハ自己ノ危険ノ省
ミ入ミテ救助セシ義ニ異哉其當時書面中
簡單ニ有之矣ニ付其當時救助セシ有様即
ク一人又ハ二人身ノ海中ニ投テテ救助シ
タルヤ只舟ノ漕キ寄セ救助シタルヤ其他
詳細取調至急回答可有之此段及通達矣也
明治三十二年五月六日

釜山島廳

新城村頭

宮長三敷整殿

明治三十二年五月六日付六八三号シヨリヨリ
わが本藩を以テテ谷船法舟救助セシ其當時
詳細取調至急回答可有之此段及通達矣也
海軍は其後冬月ナソハ名ヲト申一由リ
ト其後其氣ニ付テ右臣如クハ航海ニ其後
舟シテトタルニ舟ヲ救テ申リトヨリトテ
其後救助シタルニ其後ト申テ身ヲ救テ守リ
外ハ其後ト申テ其身ヲ救テ守リ
自己舟ヲ危険ナカラシメ其後ト申テ其身ヲ救テ
セシ其後ト申テ其身ヲ救テ守リ

匠之引獲、丹の丹、丹からモ丹、沈没
ナラぬ中、半信也、こたを、二丹、
あやうき

江戸二年五月、空は長為、

煙草作成就景況

新城町轄内本年作付、煙草ハ二月上旬頃
ヨリ三月中旬頃迄ニ挿苗ス早中作、二種
挿苗、店数十日間降雨ナキモ氣候適順ニヤ

土之肥沃ハ栽培ノ宜キヲ得タル所ハ發育
稍可。モテ其内最モ成長ノ宜キハ高廿三尺
ハ六寸位ニ至リ成就頗ル良好シ呈セリ然
ルニ場所柄ニ依リテ虫害俗に河ニシ受タルモ、
アルモ始々ノ如キハ罕ニシテ且ツ其害甚
々ニキニ至ラス晚作ハ雨量鮮ク殊ニ發育
期ノ過クハ故コヤ高廿漸ク七八寸乃至三
尺二寸位迄ニテ且ツ地味薄キ所ハ多少枯
缺或ハ挿苗店二三ノ葉ヲ添ハスルモ、昔ハ
色シ帯ビテ依然タリ早中作ナルモ土地確

且ツ栽培、是ヲザルハ亦々既作ト一般然、
而モテ本月中旬頃ヨリ早作ハ女ヲ刈始メ
及レハ八月中旬頃迄ニハ何モ刈採、見込
ナリ
右報^音矣也

新城村頭

明治世二年五月廿二日 宮三良當整

重山郡間切役場御下

春季原勝負景况

當^揮新城村民等春季原勝負、件御指ニ依リ

本月十一日ヨリ全世日迄十日間期日の定メ
上地下地両手ニ分ケ故麻青豆耳諸播種挿
付方勝負シ以テ働カシ全世一二日両手、役
者等同一検査ヲナセリ勝負ハ十五歳以上
五十歳迄^子ハ指各五十一歳以上^子ハ各
取互貫脩業ノ成績平均スルコト上地ハ主人
ニテ九坪宛働勝セシニ依リ褒詞シタシ下
地ハ以上ノ坪数働劣セシ故嚴重勸諭シ加
タリ然リ而シテ負劣ノ方則々下地、惣代
田ボサシミテ上地、惣代田ボサシ向對煩

首説白の力サミメ以テ輸贏、效驗の表セリ
右報告矣也

新城村頭

明治廿二年五月廿五日 宮良當整

金田郡間切牧場御事

作米開花ノ景況

當新城村民等本年耕作ノ稻ハ二月上旬頃
ヨリ三月中旬頃迄ニ插秧ス時節相當ナルモ
二月中旬頃ヨリ三月中旬頃迄降雨ナキ故ニ
天ノ田ハ水汽考田面亀裂シ生ニ苗挿付ノ

後ノ葉黃褐色ニ変ニテ成長セザル、ミナラス
枯朽ノモノ間マヤリ水田ハ用水缺乏ニ至ラ
ザレハ左マテ被害ナカリニモ其成育ノ形
勢亦不順ナラス然ルニ三月中旬頃降雨水
田ハ水量ノ増シ且ツ草葉灌水ノ養ヲ得ラ
草立一層勢ヲ添ヘ成生アリニモ雨量寡カキ
依リ亀裂セシ場所ハ潤澤ヲ受得ス三月下
旬頃ヨリハ間々降雨四月末頃ハ大雨ニ
潤量充多ク富モタルモ数日間ハ早魃故
其亀裂水中ニモ固存シ且ツ発育ノ時節ノ

過ぐしハ左程ノ効ナシ然リ而シテ早作ハ
何モ穂出揃中作ハ十分中二分晚作ハ所々
開花ヲ始マレリ以上ノ如リ枯朽ノ場所ア
成長ヲ得タリ部々ハ目下ノ景况稍良好
見込ナリ
右報告也

新城村頭

明治世二年五月廿六日 宮良當敷正
八重山郡間切役場御中

採仕任保過取事共都門お氏所下牧羊ニ伴
而配慮ニ外ニ年々増取如後其係保置局々
ガツガキ石壁築造ノ者ハ之有るニテ有年ノ時
負數等田課少ク其表ニ正日課込辰ノ者ハ年々
少ク取テお氏ノ表ニ正日課込辰ノ者ハ年々
右壁築造着年々其前日課込辰ノ者ハ年々
正キカ農務局々其表ニ正日課込辰ノ者ハ年々
羽三古昔未だガツガキノ表ニ正日課込辰ノ者ハ年々
三三日少ク其表ニ正日課込辰ノ者ハ年々
蒙御休務を以て御子總代ノ大正ニ達スル